

やすぎの介護をより良くする！ 私たちの挑戦



安来市長
田中 武夫

地域おこし協力隊
翠 梨重

大阪健康福祉短期大学
安来キャンパス
2年
杉本 迅

社会福祉法人せんだん会
やすぎの郷
係長
小西悠希

安来市地域包括支援センター
保健師
廣江 陸

急速な少子高齢化により需要が高まる介護の現場では、深刻な人手不足、介護職員の高齢化など多くの課題を抱えています。

市では、介護の担い手の育成とキャリア教育の機会提供を目的に、小中学校での「介護の出前授業」の実施や介護職員初任者研修の開催などに取り組んでいます。あわせて、介護職の若手職員を紹介する「やすぎカイゴのヒーロー図鑑」を作成するなど、介護の魅力発信や人材確保対策を進めています。

今回は、介護現場に関わる皆さんを招き、安来の介護の現状と課題、今後の展望などについて語り合ってもらいました。



介護が身近に

田中市長（以下、市長） 全国的に介護現場では深刻な人手不足です。皆さんはどんなきっかけで介護に関わる仕事を選択されたんですか。

廣江陸（以下、廣江） 私は安来生まれで、高校卒業まで市内で暮らし、大学で保健師の資格を取得しました。ご近所が皆さん高齢者世帯で、家族を含め身近な高齢者の皆さんが元気で過ごしてほしいという思いから今の職場に就職しました。

小西悠希（以下、小西） 私も安来で生まれ育ち、家で曾祖父の介護があり、介護は身近なものでした。周囲の人たちの役に立ちたいと思い、介護専門学校に進学しました。

他の分野も学びましたが、一番楽しかった高齢者の介護職で就職しました。

翠梨重（以下、翠） 私は、大阪で歯科衛生士として働いていました。介護施設での訪問診療に行った際には、利用者もスタッフも明るく過ごされている印象を受けました。

縁あって安来市に移住し、印象深かった介護職の魅力を発信しています。



特集：介護座談会



杉本 迅

大阪健康福祉短期大学安来キャンパスで介護を学ぶ。介護の出前授業では講師として参加。

深刻な人手不足

市長 皆さん家族など身近な存在がきっかけで介護に携わられたようですね。それぞれの職場等で課題など

杉本 迅（以下、杉本） 私の母が介護福祉士として働いていて、私が中学生の頃、母が介護の現場での出来事を楽しそうに話してくれたことがきっかけで介護の仕事に興味を持ちました。大阪健康福祉短期大学安来キャンパス（以下、福祉短大）のオープンキャンパスに参加し、少人数制でしっかり学べたのでこの学校に決めました。

はあります。小西 現場の課題は、スタッフの確保です。時短勤務やパート、学生アルバイトがいなければ業務が終わりません。リネン交換や片付け業務、感染予防の消毒など時間がかかる業務も分担するなど工夫して取り組んでいます。コロナ禍以降は、職員等の体調管理もより慎重になっているため、勤務の調整は大変です。利用者さんの生活支援を最優先にしているため、話をゆっくり聞いたり余暇時間を充実させたりすることができない場合があることも課題に感じています。また福祉短大の学生アルバイト



みどり 翠 梨重

地域おこし協力隊として、大阪から安来へ移住。介護の出前事業などを通して、介護職の魅力発信を行う。

トさんに、散歩や外出のレクリエーションを手伝ってもらっています。皆さん若くやる気があり、現場の雰囲気も明るくありませんし、職員も見習わないといけない場面もあります。海外出身の人も多く、利用者さんから日本の文化や方言を習うなど、交流の機会にもなっています。杉本 私は学校で学ぶまで、介護は利用者さんの身の回りの世話をすることだと思っていました。でも2年間学んで、身体介護だけでなく、利用者さんの気持ちに寄り添うことが大切だと気付きました。実習先の施設でも、人手不足で、利用者さんの要望に寄り添

えていないと聞きました。母からも人手が足りず、利用者さんの好きなことをさせてあげられないと聞いた事があります。市長 介護職場の人手不足は、行政としても危機感を感じています。市でも「介護のしごとガイドブック」や「やすぎカイゴのヒーロー図鑑」を作成し、介護職をPRしています。また、介護の仕事長く続けてもらうための「介護人材就業継続支援補助金」や「介護人材定着支援事業費補助金（家賃補助）」を創設しています。翠さんには、介護の魅力発信を続けていただけてますが、反響はいかがですか。



小西 悠希

安来生まれ安来育ち。利用者の余暇活動などにも力を入れていきたい。介護支援専門員、介護福祉士。



廣江 陸

安来生まれ安来育ち。包括支援センターで介護予防に取り組む。保健師。

翠 「介護の出前授業」を福祉短大と連携して行っています。令和6年度は中学生を、令和7年度は中学生と小学校の高学年を対象にして、介護職の魅力や高齢者の体の仕組みについて、杉本さんや短大の卒業生、短大の先生に話していただいています。

授業後のアンケートでは、「授業後、介護職を将来の職業として選択できる」と回答する生徒が増えた学校もありました。家族に介護職の人がいるかどうかや地域差もあるようですが、出前授業を通じて介護職へのイメージや高齢者との関わり方に変化は見られています。小中学校で関ってきた子ども

たちが、福祉短大で学び、将来は市内で働いてくれるようになることを期待しています。



介護の出前授業の様子
(講師：杉本さん)

今日の授業では、人間の身体の特徴を体験しました。
ただ、人間には、身体とともに「こころ」がある。
実際に介護を行う時には、身体の特徴の2つを大切に、介護される方をまかせられることが、とても大切。

廣江 私も小さいうちから介護という仕事を身近に感じて欲しいと思っています。出前講座は小中学生ですけど、もっと小さい頃からでも。
子どもの将来の夢に、「お医者さん」や「看護師さん」はあるけど、そこに「介護」はなかなか出てこない。高齢者とのふれあいや介護を目にする機会がないと発想できないと思います。
講座でなくても福祉短大の「萌黄祭」のように、いろいろな世代が交流できれば、仕事への印象や人との関わり方が変わってくると思います。私も小さい頃「萌黄祭」に参加して介護ってかっこいい仕事

だと思いました。今でもその時の事が記憶に残っています。
小西 施設に入所するとうしろでも地域との交流は減りがちなので、事業所でも地域との関わりは重要なことだと感じています。

感染症対策などは必要ですが、地域の趣味サークルや子ども達の習い事教室の発表の場として、施設が関わりを持ってもらってほしいです。
いろいろな人が施設と関わって来てくれるようになれば「施設に入所しても楽しいことがある」と利用者さんやご家族にも思っていただけじゃなく、いいかなと思います。



特集：介護座談会



田中 武夫

令和2年10月から市長となり、現在2期目。介護人材や医療提供体制の確保など、医療・福祉・介護をまちづくりの根幹と位置づける。

寄り添う気持ち

市長 利用者と家族のために、皆さんは非常に手厚いケアを考えてくださっています。

杉本 私も今後、就職先で利用者さんの気持ちに寄り添うことを大切にしていきたいと思えます。介護に携わる人が増えるためにも、今参加している出前授業を、来年も福祉短大の後輩たちに向けてほしいです。

学校で、認知症の方が見ている景色をVRで体験する機会がありました。いろいろな人に体験して欲しい、想像だけでは感じることができない体験でした。VR体験や介護ロボットなどの技術の進歩も、人手不足な

ど介護現場の助けになると思いますが。

廣江 ケアマネジメント業務でも、事務仕事が多くて利用者さんとの時間が少なくなってしまうことがあると聞きます。事務作業の簡素化やICT導入を進めることで、従事者の皆さんもさらにやりがいを感じる事ができると思います。

翠 市は、介護職員初任者研修をテキスト代のみで受講を募っています。若い人だけではなく、60代70代の方も受講されて働き始めている方もあります。働く意欲も働き方もいろいろです。介護を学ぶ入り口はありますから、いろいろな人に関わってほしいですね。

廣江 人手不足のほかに、介護の事業所が不足しており、介護サービスが利用できていない人がいることも課題です。

保健師として、高齢者が自立し、介護が必要でない健康寿命を延ばすことが、介護の課題解決に必要なポイントだと思っています。

地域包括支援センターでは、介護予防・フレイル予防として「こけなからだ体操」の普及に力を入れています。自治会や交流センターなどに集まり、健康体操を行っています。

取り組む団体は年々増え、市内32団体となりました。それぞれの団体で、フレイル予防の成果が明らかになっています。

市長 地域とのつながり、社会参加の割合が高いほど介護予防・フレイル予防に効果があるといわれています。

市は、幅広い世代に介護・フレイル予防の必要性を伝える啓発動画を作成しました。市の動画チャンネルや公式SNSで公開しています。今後、地域の健康教室や各種イベントでも活用していきます。

介護に関わる皆さんの利用者へ寄り添う気持ちや取り組みが非常によくわかりました。安心安全に暮らすまちづくりの中心は、医療と介護と福祉です。行政も皆さんと同じ目線を持ち、安心して住み続けられる地域づくりを目指していきます。

「フレイル」とは

加齢に伴い、心身の活力（筋力、認知機能、社会とのつながりなど）が低下し、『健康』と『要介護』の間の『虚弱』な状態を指します。



▲介護予防・フレイル予防啓発動画（通常編）
（ショート編もあります）

▶通常編2次元コード

